2014 年支援活動

③「首都圏での支援イベント」

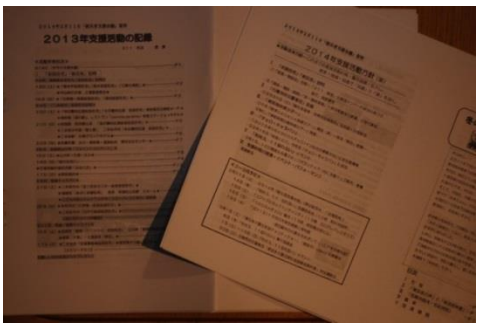
Ⅰ　３・１１被災者支援全般―Ｐ１～Ｐ７
Ⅱ　宮城県被災者支援――――Ｐ７～Ｐ９
Ⅲ　福島県被災者支援―――Ｐ１０～１９

３１１　有志
齋　藤

Ⅰ　３・１１被災者支援全般

２月１１日（月）「第３回被災者支援会議」―駿河台―

３．１１から３年。復興・復旧は依然として大幅に遅れ、多くの被災・避難者の方は、狭い仮設暮らしで、心身の疲労感は増すばかり。そこで、毎年恒例となった第３回「2014年支援会議」を神田駿河台の台湾美食料理「台北風情」で開催しました。
前日晩までは 25 人参加で料理予約。それが、今日昼までに６人キャンセル。全員「風邪」。　　定刻４時半より、１５分遅れで開始。15 分程度、「2013 年活動報告と 2014 年方針の説明」の提起。その後 20 分以上、自己紹介が続いた。ひとりを除き、全員、支援活動で知り合った多彩な方々ばかり。ただ、ほとんどの方は、一緒に被災地へ行って顔見知りでリラックスした喋り。ほとんど全員、異口同音「現地へ行くと、まだまだ支援が必要を強く感じる」「なので、今年も可能な限り参加したい」のオンパレード。心強い。



その後２時間、台湾料理で懇親。色々な話が飛び交う。今年は、これまでの「合唱伴奏」「タンゴ演奏」「講談」などに加え、「落語」「フルート演奏」「モンゴル歌手登場」などさらに多彩な支援メニューが拡がりそう。当面の日程も２，３月は確認。４月以降も、調整することになった。お疲れ様！また、「団塊の世代」の音楽プロ集団を福島の公民館か、仮設でのコーディネートを頼まれた。

２月16日（日）「１０００人チェロ」総会―紀尾井町―

★2015 年５月 24 日
東日本大震災復興祈念「1000 人チェロ　イン　仙台」準備★

午後１時から、「NPO 国際チェロアンサンブル協会」、つまり、神戸震災復興祈念の「1000 人のチェリストによるコンサート」を主催してきた団体の総会。私は、前回、2010 年５月の広島で初参加。昨年は、福島の 20 人強のキャラバンへも参加した。
雪が残る清水谷公園前のビルへ。参加者は 15 人前後。ほぼ顔見知りばかり。遠方は、大分、徳島、仙台などから。議題の中心は、来年５月予定の「東日本大震災復興祈念　1000 人チェロ」企画。まず、資金稼ぎや参加者募集だ。あとは、今年も、東北へ少人数（といっても 30

人前後）でのアンサンブルキャラバンも３年目。日取り、場所はこれから。２時半総会終了。
Ｐ１

２時半から２時間余り、４つのパートに分かれ、初見の楽譜でのアンサンブル。チェロを持参できなかった方々に、たまに譲って、「鉄腕アトム」「千の風」などを歌う。来年、仙台でも演奏する、「チェロのためのレクイエム」やタンゴなどの後、バッハのコラールで締める。ああ、楽しいかった！

そして、５時前後から、階下のレストランで「懇親会」。
これまた、盛り上がり、ワイワイガヤガヤ。特に事務局長さんの「アニメの声優」のような響き渡る地声が、広い部屋の隅々まで。途中、仙台からの脳外科医さんや、指導者の理事によるバッハ「無伴奏」。もちろん、「暗譜」。贅沢な時間だ。

２月１９日（水）「平成の大津波と博物館」展―両国―

午後から、江戸東京博物館で行われている「平成の大津波被害と博物館」を見に行く。この日になったのは、「毎月第３水曜日（シルバーデー）は、６５歳以上の方は常設展観覧料が無料」という誘惑に乗った、支援仲間たち４人。私だけ、65 才以下で 600 円。
２時に入口で待ち合わせし、見学。岩手県のいくつかの博物館や図書館が津波に襲われ、展示物や保管資料が流失。それを拾い集め、ボランティアの手で、丹念に修復作業を経て、蘇った。 古文書、虫の標本、人形・・・。気が遠くなる作業。

３月１日（土）東日本大震災復興祈念「講演及び歌の祭典」

於：越谷市北部市民会館　午後１時開演　無料

朝から越谷の先、大袋駅へ。越谷市北部市民会館で、「東日本大震災チャリティ」イベント。わが「３１１　有志」の骨格、中大人脈だ。私は、楽器も持たず、「オッターバ」合奏団の専属カメラマン兼マネージャー。講演会、演歌歌手ショー、そしてカラオケショー。こちらの演奏も、急きょ、クラシックは場に合わぬ、と映画音楽などに変更。

３月 15 日（土）「地域デビューセミナー」

～みんなでつくろう　災害に強いまちにいざ～

主催：新座市。於：ふるさと新座館ホールなど。

前日夜の合唱練習終了時に、ソプラノのリーダー格の方から、「齋藤さん、明日、私が受付やっているイベント、来られません？」と誘われ、「地域で作る災害に強いまち」と言う講演のテーマに魅かれた。なので、15 日和光市「サンアゼリア」と「新座市ふるさと新座館」を往復。講師は、財団法人減災・復興支援機構　理事長　木村拓郎さんという方。神戸・淡路の震災や新潟中越地震、そして東日本大震災の復興計画策定に参画、気仙沼、女川、山元町などの委員をやっている、という。新座市に３０年居住。実家は石巻。津波で家を流された。今回は、災害直後の「避難所」対応の教訓など１時間。

感心したのは、このイベントには、新座市にキャンパスのある立教大の学生たちが司会や、展示コーナーでの防災クイズなどやっていたこと。石巻専修大同様、地域の３つの大学と市は防災協定を結んでいるらしい。
その後、展示コーナーで、色々な市民グループの展示を見ながら、「地域市民活動」の多様さを実感した。　　Ｐ３

５月 24 日（土）「東日本大震災被災者支援　避難者の声を聴こう」

主催：コブシプロジェクト　　於：立川アレアレア２

３月の「和光３・１１」イベントにも、手作りグッズ販売コーナーに参加してくれた「こぶしプロジェクト」のイベント。「立川に避難している方々の支援」目的。
会場:アレアスタジオ（立川駅南口アレアレア２の 3F ラーメンスクエア内)
13:30 開場、13:30 開演　　グッズ販売は 11:00～15:00
私たち「３１１　有志」は、福島仮設キャラバン当日で、残念ながら伺えませんでした。
そこで、主催者さんのＦＢでの報告を転載します。

5/24 コブシプロジェクトチャリティーイベント、お天気にも恵まれ、無事に終了しました！
たくさんの方にお越し頂き、ご協力頂き、本当にありがとうございました！

アンケートのご感想、メールを頂き、私達の想いが伝わったことを実感し、開催出来てよかったと思っています。miwako&Fantastic Earth の皆さんの演奏と立川こども新体操クラブのこども達のかわいい演技とのコラボ、大好評でした！miwako さんのお話と、ソロ演奏「見上げてごらん夜の星を」は、心に響く感動的な演奏でした。被災された方々の貴重なお話は心がふるえ、不特定多数の方に直接お話しをして頂く機会を頂けたことに感謝しています。「がれきではなく、財産」という言葉が心に残りました。立川・東日本大震災避難者を支援する会 会長の佐藤良子さんのきめ細やかな支援活動と、避難されている方との信頼関係、改めて素晴らしいと思いました。終演後、佐藤会長さんとお話しましたが、３年たち、支援金は減ってきているとのこと。今、必要なのは、やはり「お金」と「心のケア」とのことでした。「コブシプロジェクトには、どんなバックがついているの？」と、よくきかれますが、とんでもない！バックは一切ありません。立川市民を中心とした、有志のメンバーによる、小さな力が結集した、手づくりのイベントを開催していますが、市民目線の視点と、想いがあるからこそ、出来ることがあると思います。これからもコブシプロジェクトらしく活動していきたいと思います。　　Ｐ４

５月３１日（土）　東日本大震災支援チャリティー合唱コンサート－浦和－

主催：MusicTree　於：埼玉会館小ホール

-本イベント収益金＆募金 123,847 円を「３１１　有志」支援金に寄付！－

午後から、浦和の埼玉会館小ホールで、第４回目、という「東日本大震災支援チャリティー合唱コンサート」へ初めて伺う。数人の合唱仲間が出演し、誘われた。2012 年５月、このイベントでの募金 68700 円を、私たち「３１１　有志」に振り込んで頂いたことがあったのに、まだお礼も言えていませんでした。合唱団体は、一人の女性指導者の各地の合唱グループなど７団体。主に浦和近辺だが、栃木県や三鷹市からも。そして、ＣＤを出したプロ５人グループ「カラー」も無償友情出演。やはり、ラスト２団体は、ほかの団体とレベルが違った。最後は、全員で、「Believe」。７月にも「双葉支援コンサート」のチラシも折り込まれ、このような草の根の支援活動を見ると、こちらも大変励まされます。終了後、2012 年募金のお礼も、指導者に出来、お返しに、このコンサートの写真をプレゼント約束。開始前、合唱団仲間たちから、「今回は、演奏の迷惑にならない限り、録画、録音、写真は自由。どんどん撮って欲しい。」。500 枚、撮りました。そして、このデータを差し上げたところ、後日、思わぬプ

レゼント！上記支援金の振込を頂きました。残高も乏しくなってきた中、大変ありがたく、頂きました。なお、これら支援金は、当然ですが、全て被災者への品などに使用、私たち支援者の訪問経費（交通費・宿泊代・食費など）には一切流用しておりません。

１０月１８日（土）　二火会にて「支援活動」講演

夜６時から、原宿で、数年前から参加している「異業種交流会」。今日は私が「支援活動」の講演をする。題して「今の涙、今の支援」。一応好評で終了。その後、懇親会。そして、毎回会場提供してくれている、海外留学生斡旋会社の女性社長が、「さくら募金」を事務所に置いてくれることに。ありがたや。

１１月1日（土）専修大で「３・１１」講演

専修大学神田校舎で、「山歩きのサークル」創部５０周年祈念の集まり。
そこで、「今の涙、今の支援」と題する講演。風邪相変わらずで、話をしていっても喉が痛み、咳、鼻水が出る。なんとか、終わるが、体調管理の甘さが、講演の出来にも反映、反省しきり。一方、はさすがプロ。２０１１年の宮城県亘理町の支援物資配布以来の付き合い、講談師「神田京京子」さんののパフォーマンスで会場は沸き続ける。そして、懇親会から両国での三次会までお付き合い。風邪の私、辛かったが、１１時２５分新宿深夜バスまでの時間潰し、もあって、ありがたくお付き合いさせて頂いた。
この講演で、私は、初の試み。「和光３・１１を忘れない」コンサートへ遠征する石巻オケ・合唱の負担軽減のための「遠征費用募金」を最後に呼びかけた。３次会まで付き合った理由のひとつ。結果、見た目しか分からないが、７つの募金箱に１０００円札が４０枚近く。５００円玉など小銭も。大成功！

１２月１７日（水）立川アート巡りへ参加

立川の「大山団地」の避難者支援リーダー、自治会長佐藤さんを囲む昼食会。

午前１１時。立川高島屋の「赤い植木鉢」前、という。てっきり、排気口を覆う、巨大オブジェだった。このガイド、立川大山団地自治会長１５年の佐藤さん。今、団地に３・１１以後、２００人以上の避難者の世話をずっとしてきて、全国「講演」ひきも切らず。前日は、日本女子大で「授業の一環」として、「震災と町おこし」テーマ、と か。１２月２日には、厚生大臣賞も受賞、という「女傑」。そのほか、２０年前、立川市の基地跡再開発で、１０億かけたアートのいきさつなども当初から委員として関わり、元バスガイドならでは。実に明快、活舌爽やか。この北口には、１０９もの作品があちらこちらにあり、１時間かけて、半分をガイド頂いた。

ツアー終了後は、「こぶしプロジェクト」で立川避難者支援のちえさんの店「夢工房」で、お弁当食べながらの歓談。みんな、「あ～楽しかった。」参加者の中に、「イベントレセプション」ボランティアの方がいて、来年３月和光市でのコンサート受付などに加わって頂けることに。また、当日、支援グッズや被災地物産販売コーナーも今年に続き、出店の方向で検討頂くことに。最後に、石巻遠征費用募金カンパ頂いてしまいました。

１２月２８日（日）仙台での「1000 人チェロコンサート」練習

来年５月、仙台ゼビオアリーナでの「東日本大震災～鎮魂と復興支援～１０００人チェロコンサート」のための、地域別の「練習」。今のところ全国で７００人が、あちこちで分散して練習しているのです。午後から、多摩川の「富士見区民会館」で３時間半。私は、仙台の練習についで２回目。満席で、横や後ろの弓が触るほどの距離。ざっと５０人ぐらい？帰りの電車で一緒だった都内在住の「福島キャラバン」の顔見知りと、平和台在住の「初対面」の女性と雑談、前者には、「和光３・１１を忘れないコンサー ト」に乗るよう、後者には、観客として来るよう、チラシを手渡す。前者は、オケ仲間も誘ってくれる、後者は、友達を誘う、という。ありがたい。

Ⅱ　宮城県（主に三陸海岸）被災者支援

気仙沼大島支援者と打ち合わせ

２月23日（月）昼前に、さいたま新都心駅で、気仙沼大島支援の保田さんとサイゼリアで昼食しながら、２時間の打ち合わせや情報交換。

５月１９日（月）１時半、北朝霞で、気仙沼大島支援の保田さんからのお呼び出しで、お話を聴く。気仙沼大島の小学校でコンサートをやるが、その前後で、福島県内でも演奏したいので、場所の選定、プラニングなどを手伝ってほしい、とのこと。「出来る限りはなんでも」と快諾。

６月16日（月）「和光３・１１つながりカフェ」終了後、快速電車で一駅。今度は、北朝霞で、気仙沼大島支援のＹさんからのお呼び出しで、「高名なＣＭ音楽プロデューサー」と懇談。ご自分が組織したアコギなどのバンドでの、８月９，１０日気仙沼大島訪問で、福島立ち寄り訪問を組み込む相談を受ける。現在、「団塊の世代の唄」というアルバム製作中。もちろん、ご本人も、私と一年違いの同じ「団塊の世代」。６０年代、７０年代のインパクトのあった洋楽、Ｊ－POPS の話題も尽きない。カフェで、１時間半、飲み屋でまた２時間。

Ｐ７

《参考》**８月９～１０日　福島・気仙沼キャラバン**

2014年（平成26年）8月20日（水曜日）　11版　4

被災地発

明日への希望 うたう

NHK「みんなのうた」で九月末まで全国放送されている「アスナロウの木」を歌うグループ「団塊の世代の唄」が、福島県本宮市や宮城県気仙沼市の仮設住宅など三カ所でライブを開いた。今年は二胡奏者野沢香苗さんも加わり、被災地に澄んだ音色を響かせた。

被災地訪問は、グループの秋田新一郎さんが「勇気が出る歌を作って」と宮城県出身の知人に頼まれたのをきっかけに二〇一二年五月に石巻市で行い、今年で三回目。

初日は、福島県浪江町から避難中の約百三十世帯、約二百五十人が住む本宮市の恵向仮設住宅集会場に集まった約二十人を前に、オリジナル曲など十曲を披露した。秋田さんらが被災地を思って作った「海辺育ち」「朝が来る」のほか、気仙沼での復興支援の輪から生まれた「アスナロウの木」も歌った。「ふるさと」を全員で合唱して締めくくった。

若い世帯が住宅を見つけて外に出る中、この仮設住宅に住む人の八割が六十五歳以上。原発事故で帰るに帰れない毎日だ。浪江町に自宅がある丹伊田幸子さん（六三）は「強く響く音が、避難してきた自分たちの気持ちを歌っているようだった」と涙をぬぐった。

二日目は気仙沼市の離島・大島を訪問。「アスナロウの木」は大島出身の詩人水上不二の詩にグループの梅垣達志さんが曲を付け、地元の小学生がコーラスをした。ライブ会場には録音に参加した小学生たちも訪れ合唱に加わり、明日への希望を歌い上げた。

秋田さんは「本当に伝えたいものが、東京で聞くライブより被災地の方がお客さんに届く。音楽をやる原点に戻る感じ」と話している。

（五十住和樹）

気仙沼大島支援の保田さんからの依頼で、一年に一回、音楽プロデューサー秋田新一郎さんの「団塊の世代」バンドが行う１０日気仙沼大島でのミニライブコンサートの前日の福島県内でのイベント、ツアールートなどの企画を手伝いました。以後は、気仙沼大島の民宿宿泊し、１０日、島民や小学生らと合唱イベントでした。今回は、NHK「みんなの歌」の８月の歌に取り上げられている新曲「アスナロウの木」を気仙馬大島の小学生らと合唱するのがメイン。　Ｐ８

５月１１日（日）　宮城県亘理町荒浜小学校支援イベント

和光市にある県立樹林公園で開催された、イベント。私たち、「３１１　有志」にとって、亘理町は、活動の原点ともいえる場所。2011 年７月からの、亘理での支援物資配布で、最初は首都圏から数人で始まり、夏からは 30 人規模に拡大して、６回訪問。荒浜（仙台市若林区、の同名場所とは違う）には、一番最初に行って、津波被害のすさまじさを体感もした、思い入れがある地域なのです。会場では、色々な出し物やお店。とても素晴らしいのは、若者主体のイベント。観客にも、赤ちゃん連れなどが目立ち、これも、ボランティアのピエロなどの大道芸人たちが子供たちの前で大活躍。和光市社協常務は人形劇で活躍。僅かな時間しかいられなかったが、青年会議所の方、大船渡支援の方などと名刺交換。有意義でした。

６月 28 日（土）７月１６日(水)　銀座～石巻　復興バー

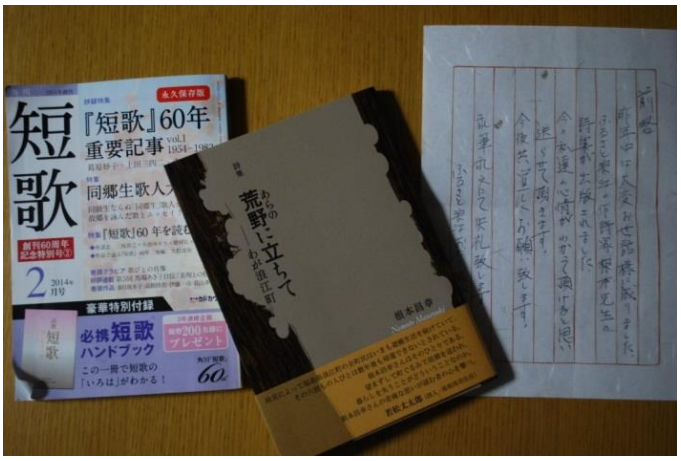
６月。銀座ライオンとフェラガモの中央通りを一本有楽町側に入った裏道沿い。まず、YAMAHA で、仮設で失くしたチェロ用のストッパーを買う。その近くの復興バーは、店構えは小さい。３時半、１階で、１枚５００円の回数券を購入。そして地下のバーへ。すでに、合唱団メンバーは大学時代のサークル仲間と飲み始めていた。今日のスタッフは、カウンター内の一日ママの「保育関係者」たち。石巻出身の若者がひとり。それに、ひとりで来て、横で飲んでいる腕に入れ墨の若者と、成増在住の保育士の女性から、被災地の現状の質問やら、まったく関係ない身の上話などで盛り上がり、あっと言う間の１時間。

７月。銀座「復興バー」。先月も行った。そのときは、「保育士」さんグループ。今日は、石巻出身女子たちの一日ママ。福島・浪江支援のイベントで一緒に飲んだアサノさんからの案内で、行った。満席。そして、何人もの石巻出身者や支援者と色々な会話が交わせ、こちらの或る狙いは、大成功。何人もの協力者が出来た。今週土曜、１９日までの期間限定でした。

Ⅲ　福島県（主に浜通り）被災者支援

２月１７日（月）「ふるさと浪江」作詞者の詩集（本ＨＰに楽譜リンク）

夕方、「今の心情を分かって頂けると思い」とのお手紙とともに小包で送られてきた。本宮市内の仮設住宅に住む、「ふるさと浪江おどり隊」の女性リーダーからだ。私たち「３１１　有志」合奏団が、一昨年秋から昨年にかけ、訪問する全ての仮設住宅などでの「歌謡曲・童謡」合唱の最後に歌う「ふるさと浪江」の作詞者、根本昌幸氏の作品集「詩集ー荒野に立ちてーわが浪江町」。



本は、平易な言葉の詩なので、一気に読み終えた。しかし、これは、「ひとりの私的詩集」でなく、故郷を離れて、ほとんど帰還する展望も持てない福島県民避難者・被災者１４万人からの叫びの残響なのだ。私とほぼ同年代。辛さが伝わり、心苦しくなった。

「本」には、４３篇の詩。「瓦礫の海辺」「誰もいない」「ふるさとがない」「帰還断念」「故郷喪失」などのタイトルが並ぶ。

　その中に「私すきな人ができました」という題の詩。根本さんに３月末にお会いしてお話を聴くと、この「娘」は、「３・１１の大津波」ではなく、その前の海難事故で亡くなったのだ、そして、夫も若くして亡くし、孫を祖父母が育てている、という。しかし、実際には、このような娘や息子を３・１１の津波で亡くされたご遺族の心境と変わりない。

詩は、抽象であり、普遍である。

（前半部分は略）

「小学５年生の私の娘は　　二十一歳になると結婚をして　　男と女の子を産んだ。

一人は一歳になる前に死んで　もう一人は今小学五年生で　男の子だ。

男の子はそんなことは言わない。　　少年野球に夢中だから。

（注「娘が小学五年生の時に言ったーわたしすきな人ができましたーということは言わない」）

娘は男の子を残して　　三十歳で死んでしまった。　　海で　大波に呑まれて。」

３月８日（土）　朝霞「福島支援」イベント

朝霞市立図書館へ。今日から３日間、福島県の原発被害関連の映画、詩の朗読、写真展。受付の方々と話し込み。２時からの「双葉町の映画」は、満席で、入りきれずだったとか。明日１０時と２時の２回。どちらかを見よう。早速、「和光３．１１を忘れない」チラシを置かせて頂く。帰りがけ、朝霞の基地跡地問題の先頭にたっていた方と初挨拶。娘たちが小学校の同級生同士。やっと、和光ばかり、でなく、朝霞市膝折町同士の点がつながった。

なんと、ここ朝霞の線量が、０．１７３、と高い。年間許容量１ミリシーベルトを超える。千葉県柏市などはもっと高い、という。福島のこと、ヨソのこと、ではない。そして、いまだ４号機始め、崩壊の危機は去っていないし、廃炉も未着手。忘れない！というより、知らない！のだ。午後、朝霞市在住、浪江→双葉町出身の女性「真奈美」さんの詩を、劇団１９８０の室井美香さんが朗読。

「等価交換」

引き離された魂を　奪われた時間を　想い出を　返してください
青い海を　緑の風を　返してください
あのたくさんの笑顔を　やさしさを　返してください
抱えきれないほどの　すべての悲しみをそっくり返しします
言いたいことなら　　山ほどあるさ
喉に詰まって　苦しいくらい
胸につかえて　切ないくらい
ぼくらは　　いろんなものを抱えて生きている
いまも・・・・そして　　これからずっと

そのあと、映画「立入禁止区域　双葉～されど我が故郷」の上映。2011 年４月から９月ぐらいまでの間のドキュメント。監督自らレポーターとなって、「禁止区域」へ突撃取材。そこには、浪江町請戸の津波被害の惨状とともに、救援・捜索が一か月されなかったことへの怒り、原発労働者として長年働いた人たちの熱い語り、機械的に距離だけで立ち入り禁止措置の矛盾。

上映終了し、監督の佐藤武光さんや詩人真由美さんらと「お話会」。写真展のカメラマンも含め、なんと全員が双葉高校の出身者だった。ここで、浪江町から富士見市に避難している老夫婦や近く都内で「３．１１」イベントをやる、という若者などとも懇談。皆、口々に「原発」「東電」などへの批判。一挙に、足元の朝霞での「人的つながり」も出来た。そして、私も質問がてら、ちゃっかり「和光３．１１を忘れない」イベントを宣伝。会場に置いておいた 10 枚程度のチラシも「完売」した

４月６日（日）―福島・浪江写真展とトーク―

和光市駅から渋谷駅、そこからバスで１５分、下北沢の「ふくしまオルガン堂」で、福島は浪江出身の写真家、高木成幸さんの写真展。今日は、ご本人のスライド解説１時間。２０１１年３月から今日までの主に「浪江町」の写真。終わってから、福島の郷土料理と焼酎で乾杯。２次会はワイン。

４月 12 日（土）歌人三原由起子さんと写真家高木成幸さん対談

４時半。５日に行った下北沢の「ふくしまオルガン堂」の３時からのイベント「浪江出身の写真家高木さんと歌人三原さんの対話」が終わり、お茶とケーキでの懇談。目的は、３つ。

①高木さんの写真を５月以降の浪江の仮設訪問時に掲示、の了解を頂くこと

②歌人三原さんの短歌をいくつか同じく仮設で詠ませて頂く了解を頂いたお礼

③企画した村田活彦さんの「詩人の誕生」詩と歌のＣＤが本日より買えること。　Ｐ１２
その３つは果たし、まず、９日付福島民友朝刊に大きく取り上げられていた三原さんの記事をご本人に持って頂いて記念写真。（ここでは背景の金髪女性）。
３．１１直後の「ipat 片手に　震度を探る人の　肩越しに見る　ふるさとは　赤」、
今年の「ひるがえる　悲しみはあり三年の　　海、　空、　山なみ　ふるさとは　青」
さらに、「沈黙は日ごとに解（ほど）けていくように一人ひとりと声を束ねて」の代表３作を、今年の仮設訪問で、朗読する。
懇談では、三原さんのご両親や夫、三浦さんのお母上などと持参した浪江出身の詩人根本昌幸さん（ご両親や娘さん同士知り合い）の「荒野に立ちて」なども交え、色々な話が聞けた。さらに焼き鳥屋で、これらのメンバーや石巻湊小出身のスタッフさんたちと「深酒」。楽しく収穫の多い晩だった。

５月１８日（日）　浪江支援イベント

３時 45 分、下北沢「農民カフェ」へ。浪江出身の映画監督佐藤武光さん、写真家高木成幸さん、歌人三原由起子さんの対談。

５時からの懇親会に遅れて出席。浪江の請戸海岸にあった酒蔵が被災、現在山形の酒蔵を借りて作っている、という日本酒で乾杯。様々な浪江出身者や支援者と出会い、有意義。終わってから、歌人夫妻など４人で、２次会。ここでまた、ここには書けない本音をぶっちゃける。これも極めて有意義。また、帰宅は午前様。

５月 22 日（木）　佐藤映画監督と打ち合わせ

午前中、週末の準備やら、書類整理やらで腰痛に。アイタタタ。それでも、重い資料を詰めて、12 時には、渋谷文化村のカフェへ。映画監督佐藤武光さんと情報交換。先の朝霞図書館での、映画「立入禁止区域・双葉～されどわが故郷～」上映会で知り合って以来、すでにこれ

で４回目。でも「一対一」は初めて。

これからの支援活動で、単なる上映会だけでなく、映画を使った企画のアイディアと、朝霞近辺の人脈紹介を頂く。これまでの音楽や朗読、講談などに加え、「映像の力」へトライして、新たな支援参加者を巻き込んで、主に首都圏に避難している方々へのわずかな「お役立ち」ができれば、と思う。ここでも、コーヒーお代わりのみ、男同士の長話２時間半。お別れしてまず、７階のジュンク堂へ。近所の３軒の本屋には無かった「DAYS　JAPAN」ゲット！気になるチェルノブイリと福島の各町の放射線量比較、

６月１８日（水）第１２回「四年目、福島の今を聞く」

私は、他用で参加出来なかったが、以下、金子さんの素晴らしいレポート。

「福島の声を聞きたい」

先日 6/18 のフクシマを思う 12「四年目、福島の今を聞く～全村避難の葛尾村からの報告」にお越し下さった皆さま、本当にありがとうございました。
なんとなんと、これまでで一番多くの方がご参加下さり、超満員、ボランティアスタッフもてんやわんや、会場は人いきれで息苦しいほどでした。それにも関わらず、参加者お一人お一人が２時間あまり真剣に耳を傾けて下さったのが強く印象に残っています。
アンケートを見ると、やはり、４年目に入り、現地の声がますます伝わってこなくなったことに皆さん強い危機感を感じておられるようでした。そして現地で何が起きているのか知りたい、という声が本当に多かったです。ゲスト２人のお話を聞き、まだまだ続く放射能との戦いを思い、日本人全員の問題として、生きている限り関わりつづけていかなければと気持ちをあらたにしたという感想が多く聞かれました。これからも「現地の声を聞く」ということを基本に、この会を続けていこうと改めて思いました。さて、今回、葛尾村からお招きした畜産農家の松本さんは、（奥さまが仰るには朝から晩まで寝ても喋っているという）お話のとっても面白い愉快なおじさまです。会場の人数を見て「こんなに多くの方が聞いてくださるなんて、それだけで嬉しい」と仰ってました。私たちもやりがいがあります。ご自身でたくさんの資料を

お持ち下さり会場の皆さんに配ってくださいました。

Ｐ１４

葛尾村や福島全般の状況をお話し下さったあと、ご自身が育てていた牛の話をして下さいました。県や国やあちこちに掛け合ったけれど、結局、牛を助ける方法がなく、野放しにして近隣に迷惑をかけるわけにもいかず、我が子同然に育てていた子牛も含む牛たちを、自分の手でえさが食べられないように縛り付けて置いていかなければならなかったその苦しい胸の内を話して下さった時には、会場では涙を拭う姿も見られました。原発事故は人が生きる土台である「住む場所」と「仕事」をある日突然に奪いました。その上に我が子同然の牛たちの命までも奪わなければならない。なんで松本さんたちがそんな理不尽な目に遭わなければならないのか、どう考えたって納得できるものではありません。

続いて、詩人の小島力さんがお話し下さいました。小島さんは震災の翌日、いち早く危険を予測したお子さんたちの強い勧めですぐに東京へ避難されました。しかし家も畑も山もすべて放射能で汚染され、とても帰れるような状態ではありません。生きている生活そのものをすべて根こそぎ奪われました。避難の中でふるさとを失った想いを「草茫々、わが涙滂々」と詩につづっています。葛尾村の村民は今、東電に対して「集団申し立て」を行っています。現状では、補償を決めるのは事故を起こした加害者である東電です。ですから東電の都合が最優先される、それはおかしいじゃないかということで、個人個人は非力ですが村民が一緒になって集団申し立てをすることで、被災者の正当な権利を申し入れようというものです。また、小島さんたちは村の汚染状況をつぶさに調べておられます。一件当たり一億円の除染費用をかけて、除染するのは各家の周囲 20m と道路の周囲 20m。それは点と線でしかないのです。

ほとんどが山林の葛尾村ではそれではどうしようもないのです。除染の効果は３割程度減るだけ。私たちが訪れて計測した時も、除染済みの家屋の周囲で 0.53μSv/h ありました（年間被爆量 1mSv の場合は 0.23μSv/h、放射線管理区域は 0.6μSv）。日頃の穏やかさとは異なり、データに基づききっぱりと厳しく国の無責任さを問う小島さんの言葉には、強い怒りが込められていたように感じました。

さて、後半の朗読では、小島さんの詩集「わが涙滂々　原発にふるさとを追われて」を読みました。私の朗読では定番となりつつある小島さんが 30 年前にお書きになった原発労働者の詩「原発問答」と、当たり前の暮らしを失い、荒れていくふるさとを思う詩「草茫々」と「当たり前の」を読みました。お２人のお話を聞いた後だけに、詩の言葉一つ一つが実感となって聞こえてきます。そして、最後はバンドネオンの平田耕治さんとコントラバスの木田浩卓さんによる演奏。本当に素敵な演奏でした！たくさんのお話を聞いた皆さんの心に、すぅーっと切なくてあたたかいバンドネオンの音が染みていって、タンゴの名曲がお寺の本堂に響き渡り、ひととき酔いしいれました。コントラバスの木田さんは相馬市出身。ご実家のお話もしてくださいました。もっともっと聴きたかったと仰る方が大勢いらっしゃいました。またぜひ演奏していただきたいです。

事前にチラシを配布して下さった皆さん、当日準備に駆けつけて下さったボランティアスタッフの皆さん、その他ご協力下さいました皆さんに深く御礼申し上げます。毎回新しい出会いと繋がりが生まれています。ささやかな会ですが、福島と私たちを繋ぐきっかけになれば本望です。帰り際に、松本さんに思い切って今後どうするのか聞いてみました。　　Ｐ１５
50 年間は葛尾には帰れないだろうと講演で仰っていた松本さんは、少し考えて「子どもらが戻らないと言ってるからどうしようもない…わたしらももう戻らないだろう。代々続いた畜産農家を自分の代で幕引きしなければならない」と静かに答えました。そして思い出したように「牛を埋葬した場所に、なんとなくあちこちで手に入れた桜の苗木を植えてたら、気が付けば、埋葬した牛と同じ数の 11 本植えてたんだ…不思議だなあ」と遠くを見るような目でつぶやきました。松本さんが牛を見つめる眼差しはきっとこんな風にやさしかっただろうなと思いました。「涙も枯れ果てたよ」とにっこり笑って帰って行かれました。
また、そのうち機会があれば、松本さんと小島さんにその後のお話を伺いたいと思います。
当日パンフレットに書いていただいた双葉町と川内村からの連載リポートも、時の流れを感じさせ、本当に考えさせられるものでした。
次回、フクシマを思う第 13 回は 12／1（月）の予定です。
ゲストは冨沢酒造の冨沢真理さん、演奏は nutmeg さん。「明日へ繋ぐ、双葉のお酒の復活」のお話です。ぜひ足をお運びください。

12 月 1 日（月）「ふくしまを思うシリーズ」イベント参加。

夜７時。女優、金子あいさん主催の「ふくしまを思うシリーズ」１３．「三百年の伝統、双葉の銘酒『白富士』復活をかけ新天地のシアトルへ」。吉祥寺の浄土宗のお寺に　１００人以上ぎっしり。３部構成。まず、飾り気無く、身も蓋も無い、でも、ユーモアたっぷり、若いメインの酒造の娘さん、富沢真理さんの話を金子さんが絶妙な話術やタイミングで料理してゆきます。
３００年前、相馬藩の武士だった祖先、殿様の落馬を目撃、助けたが、その「褒賞」で、「酒造り」を許され、いや、「武士の恥、落馬を見られた」殿の「口封じ」か、「左遷」が始まりの、酒屋家業。２０代目の父。福島第１原発から、３．５ｋｍの位置にあった店、酒蔵は、もはや使なません。３・１１後、それまでと　ても大きかった父の背中が小さくなりました。それが、ひょんなきっかけで、シアトルへ行き、鮭が遡上する、水が豊富、日系人たちの労苦のうえに、日本への信頼　と、日本文化が残り、父は、「ここで酒をつくろう」。夢は、今後、３００年

の間、富沢酒造は引き継がれ、そして、再び「休眠中」の双葉の酒蔵が復活すること！
第２部は、福島に対する想いの詩の朗読。第３部は、若い女性２人組のデュオ。

１０月２３日（木）映画「遺言　原発さえなければ」

映画　茅ヶ崎「遺言 原発さえなければ」福島の３年間 一生消せない記憶のものがたり
全五章 一挙上映（約４時間、途中休憩あり）　１４時～１８時
１８時～豊田監督によるお話　場所 茅ヶ崎市勤労市民会館６階

片道２時間。遠い茅ヶ崎で、ドキュメンタリー映画「遺言」上映会に。主催者の中に顔見知りが数人。「あら、どうして？久しぶり～」とダンナの横でハグされた。皆、私の「３１１　有志」企画で、被災地に一緒に行った方々。会場は、平日午後にもかかわらず、140 名前後で満席。
さて、内容。福島の３・１１直後から、３年間、飯館村、浪江町、相馬市の主に牧畜農家の家族たちの日常に入り、写し撮る。
第１章汚染ー飯館村村民はまだ避難せず、被爆していた。
第２章決断ー「計画的避難区域」に指定され、牛を手放さざるをえない苦渋。
第３章避難ー川俣町、福島市、山形、横浜などへ散る。
第４章故郷ー久しぶりの盆祭りでの顔合わせ。
第５章遺言ー「原発さえなければ」とチョークの走り書き。友人が駆けつけ、お棺の中の故人に、絶句。また、別な避難家族の妻は、一時帰宅中、「アパートに戻りたくない」と焼身自殺。そして、ヨーロッパの食品会社からの１億のファンドで、福島市で牧畜を再開する「青年たち」。自給自活の飯館村と違い、牧草も買う。前途多難。最後は、黒い汚染物の中を牧畜農家が歩く。最後だけ「バッハ無伴奏」のＢＧＭ。10 分の休憩挟んで、ともかく画面で線量計が振れっぱなし、鳴りっぱなしの４時間。観客は居眠りすることもなく、時に笑いも起こるユーモラスな夫婦喧嘩なども交え、ほぼ退席者も少なく、見切った。そのあと、共同監督のひとり「豊田直己」氏の講演と質疑１時間。さすがに、満席だったのが、半数近くが空席に。２時から７時までの５時間イベント。終了後、食事会に誘われ、「嫌々」参加。参加者９名。うち初対面は３名だけ。講師の豊田監督と元原子力プラント設計者で反原発の技術的問題点の指摘した後藤政志氏、そして主催者の女性１人。豊田氏のフリージャナリストとしてのキャリア、実

績は私も一定知っていたが、改めて「表現者の視点」について気付かされたことがいくつもあった。また、国会での参考人や保安員だった後藤氏が、熱く東芝時代の「ここだけ」エピソードを語るが、同い年、結構気さくなので、面白かった。で、10 時に失礼し、自宅へ着いたのが、午前０時 15 分すぎ、凄く中身の濃い、長い一日だった。11 月は飯館村仮設へ行く。

１１月 28 日（金）映画「日本と原発」

２４日に開演１５分前に行って満員で入れなかった映画「日本と原発」。
今度は、開演 45 分前に着いた。しかし、もう、写真のように定員１３６席の８割埋まっていた。そもそも、弁護士が監督のドキュメンタリー、と聞けば、「延々とインタビューを流す」か、「理屈っぽい裁判闘争の過程」かと思ってたかをくくって見始めた。しかし、２時間 15 分、おそらく会場のひとりの観客も寝ることなく、集中して見通した、と思う出来。原発とは何か、原発推進派の論理とその破綻はどこか、などが、イラストや当時のフィルム、そして今年９月の浪江の映像など駆使して、とても分かりやすい。これなら、中高生でも、充分理解できる。
最後に本人、河合弁護士が挨拶。「まず、音楽どうでした？これは、あのゴーストライター、新垣隆さんです。親しい友人の三枝成彰さんが嫉妬するぐらいの才能と評価したので、書き下ろししてもらいました。演奏もシンセでなく、桐朋と芸大の学生たち 50 人の生演奏です。また、私が監督、となっていますが、実は影で色々手伝ってくれたのは、某有名なＣＭフィルムの監督。でも、名前を出すと、原子力村の圧力で仕事が無くなる。この会場にも見えていますが、紹介できません。そして、最終日の挨拶のはずでしたが、連日（15 回）超満員で、毎回 30 人もの方にはお帰り頂いてしまいました。今日は、90 人も、でした。そこで、12 月 4～6 日、12，13 日の午後７時から、ここで追加上映することになりました。」。
帰りに、河合弁護士と少し話し、握手。すると、そのあとの女性たちと抱擁。「オランダから来た」と聴こえた。

２０１５年2月１１日映画「日本と原発」上映会開催決定！

１２月１８日（木）浦和「ときわ会館」で、「第１５回福玉会議」。

浦和市役所裏の「ときわ会館」会議室で　午後１時半開始。
メインは埼玉県内に東北３県や茨城から避難している6000人の方々を支援する、県内28箇所で開催されている、様々な「お茶飲み会」「イベント」を主催する各種団体メンバーや、福島県や浪江町職員で、埼玉常駐の復興支援員たち。さらに、その情報を、主に福島からの避難者へ伝える「福玉便り」を発行している編集部、復興庁や東電のオブザーバー、合計50人。
16団体からの３分スピーチ。おおよそ、「避難者10～20人前後の集い」を毎月、または不定期に行っていて、たまに「クリスマスパーティ」「芋煮会」「観光旅行（バスツアー）」などを行っている紹介。最後近くで、私の番に。事前配布した３種類のチラシ（先般実施した「第３回つながりカフェ」チラシ、「遠征費用募金」チラシ、そして来年３月の「和光３・１１イベント」チラシ）を手に、簡単に紹介。その後、主に「災害復興住宅」の入居基準や出来上がり具合、現在の借り上げ入居団地やアパートなどの補助打ち切り、などでの質疑が、避難者と福島県や復興庁、東電の間で交わされ、なにが現在の焦点か、が分かりました。
今回の会議では、「つながりカフェ」に差し入れ持参で毎回見える埼玉労働者福祉協議会、永田さんが主催者として総合司会。大変、気を使って頂きました。
まず、冒頭の主催者の挨拶で、いきなり「今日は、初参加ですが、他にはない大掛かりなイベントを毎年開催し、また二ヶ月に一度の集いを開催している、和光さんが見えていますので、ご紹介します。」、と振られ、慌てて立ち上がってしまいました。
次は、団体発表のあと、来年からＮＨＫＦＭで月一回、「福玉便り」コーナー生20分が開始、との報告。また主催者、年間12回の中で、わざわざ「和光さんにも来て話してもらいますよ。」とこちら見て。最後に労働金庫の方の「助成金」についての案内でも、「和光さん、使えるか、

このあと、相談して。」と誘い水。
５時会議修了。すぐに、懇親会。半数参加。南相馬、浪江、富岡の方などや、復興支援員、支援者などの皆さんと親しく名刺交換や懇談。
浪江町の日本酒ですっかり良い気分。まだ、７時半。数人から、さらにもう一件、と「焼き鳥屋」を誘われたが、丁寧にお断りして帰宅しました。

Ｐ１９（完）